

論壇時評

中嶋嶺雄

映画『東京裁判』がいま静かに着いた時代の山本宮は、「戦後

民主主義を築く—天皇制をめぐる—」(世界)で、「天

皇の問題は「やっぱり一人一人が、自分の中でひっそり

「世界」の特集「われわれの民主主義」の巻頭対談、日高六郎・鶴見俊輔「いま、民主主義

の終わりを、それ以前は祖父の父が困窮に働いていたので

「誰でもないひと」や「誰でもないひと」から「誰かであるひと

たしかにあたらしい形と姿

人民戦線の隠し味狙い集めながら電柱にするのほり

「勝者の裁き」を超えて(中央公論)は東京裁判にかんする

「単純化された不毛な三者択一の図式の克服」を求めている。

自らの責任をあまりにしない不

「大沼保昭」「文明の裁き」「勝者の裁き」を超えて(中央公論)

「誰でもないひと」や「誰でもないひと」から「誰かであるひと

たしかにあたらしい形と姿

人民戦線の隠し味狙い集めながら電柱にするのほり

人民戦線の隠し味狙い集めながら電柱にするのほり

(之刊)

新

東

東

東

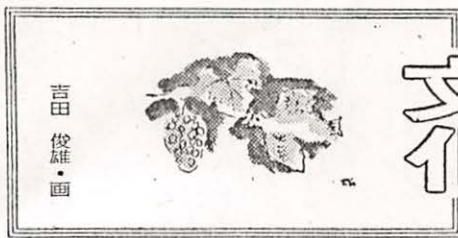
128日(木曜日)

『東京裁判』議論盛ん

▲小堀桂一郎・長谷川三千子・渡部昇一氏らの座談会など

山崎正和「新しい個人主義の予兆」▼

『表現する個人』の時代を予測



吉田 俊雄・画

国家に対する鶴見氏の姿勢に注目

「市民対国家の戦争なんだ」とい

山崎は、七〇年代以降の今日

不徳の根源は『羨望と嫉妬』と西部氏

「羨望と嫉妬」だと言

一方、信夫清三郎「太平洋戦争」と「大東亜戦争」(世

私は右の鶴見の発言を読んで

右のような山崎の透徹した認

「羨望と嫉妬」だと言

「羨望と嫉妬」だと言

「勝者の裁き」を超えて(中央公論)は東京裁判にかんする

「単純化された不毛な三者択一の図式の克服」を求めている。

自らの責任をあまりにしない不

「大沼保昭」「文明の裁き」「勝者の裁き」を超えて(中央公論)

「誰でもないひと」や「誰でもないひと」から「誰かであるひと

たしかにあたらしい形と姿

人民戦線の隠し味狙い集めながら電柱にするのほり

人民戦線の隠し味狙い集めながら電柱にするのほり

詩の月評

那珂氏の詩論集

五音と七音を基準とした短

詩書店刊の巻頭の部分

その 半月を握みとって

たしかにあたらしい形と姿

人民戦線の隠し味狙い集めながら電柱にするのほり

人民戦線の隠し味狙い集めながら電柱にするのほり

人民戦線の隠し味狙い集めながら電柱にするのほり

<下>

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子

井坂洋子